とちぎ農産物マーケティング協会 月刊情報

平成30年 8月号 vol.131

◆ 花き生産者大会開催

とちぎ農産物マーケティング協会とＪＡ全農とちぎは７月13日(金)、宇都宮市内で平成30年度栃木県花き生産者大会を開催した。

県内の花き生産者が一堂に会する大会で、花き部会の各研究会及び生産組合などから約130人が参加し、県産花きの生産振興に向けて技術の研鑽や情報交換を行なった。

大会式典では、平成29年度の関東東海花の展覧会、栃木県花の展覧会、栃木県花き立毛共進会の上位入賞者に表彰状が手渡された。また、各研究会活動の功績者に感謝状を贈呈した。

研修では、日産自動車ＡＰＷ改善コンサルティング室の尾崎和仁課長が「農業における生産性向上の取組み」と題して日産流改善（ＡＰＷ）の考え方を披露した。

尾崎氏は、県の「現場改善講師派遣事業」や「モノづくり改善道場」の講師を務めており、製造業の現場改善の手法を農業に応用して生産性向上を実現した、上三川町の花き生産者の事例を紹介して、分かりやすく解説していただいた。

次の講演では、日本花き生産協会の髙橋貴與嗣事業部長が、「花き日持ち性生産管理基準の認証制度について」と題して、同制度の内容を分かりやすく説明していただいた。

情報交換会では、花きの品目を問わずお互いの持っている情報を語り合い、和気あいあいと遅くまで盛り上がった。

第63回全国野菜園芸技術研究会群馬大会が開催される

７月19日(木)～20日(金)の２日間、群馬県高崎市（高崎市文化会館）で全野研群馬大会が本県からの参加者35名を含む総勢約650名により開催された。

今回は「新技術を活用したもうかる野菜経営の実現」をテーマに、生産性向上の取組みや新しいことに挑戦する生産者・産地の事例発表が行われた。２日目はＪＡ全農ぐんまの園芸作目生産実証ほ場（きゅうり・なす）、佐波伊勢崎農協の選果場を視察した。

また、大会式典において野菜園芸功績者表彰が行われ、本県からＪＡうつのみやトマト専門部の野口時男氏が受章された。

第19回パワフルアグリフェアイベントでの「とちぎ特産物」ＰＲ

７月21日(土)～22日(日)の２日間、宇都宮市のみずほの自然の森公園で、第19回パワフルアグリフェアが開催された。

特産部会では昨年に続き、とちぎの特産品である「かんぴょう」「こんにゃく」の普及啓発及び消費拡大を図るため、来場者である一般消費者を対象にＰＲ活動を実施した。

なかでも、「かんぴょう（25ｇ）」サンプルの無料配布では、来場者より特に好評をいただいた。また、国産のかんぴょうは輸入品と違い、「歯ごたえがある」とのご意見もいただいた。

夏秋なす現地検討会

７月25(水)にＪＡおやま管内にて夏秋なす現地検討会が開催された。

ＪＡおやまナス部会では、品質の平準化を図るための目揃え会の実施や、生産履歴記帳の徹底、ＧＡＰの導入、さらには放射性物質・残留農薬検査の実施により、安全・安心を確保しており、視察ほ場の髙橋敏夫氏のほ場も丁寧に管理されていた。総合検討では、当面の栽培管理のポイント等の情報交換が実施された。

夏秋いちご連絡協議会現地検討会

７月26日(木)に宇都宮市内において、なつおとめ生産者および関係機関約50名出席のもと、夏秋いちご連絡協議会総会・現地検討会を開催した。

総会では、29年度に引き続き、なつおとめのブランド化を推進するとともに、需要の増加している現状を踏まえ、安定生産に向けた取り組みを行っていくことを確認した。現地検討会では、竹澤宜浩氏のほ場にて、なつおとめを夏秋どりだけではなく、冬場も収穫する取り組みなどの視察・情報交換を実施した。

なし根圏制御栽培現地検討会を開催

当協会は県委託事業として、６月20日、宇都宮市においてなし根圏制御栽培現地検討会を開催し、県内のなし生産者や関係者約50名が参加した。

今回は、根圏制御栽培を導入して10年以上が経過している生産者２名のほ場を視察し、結果枝の配置や着果状況などを確認するとともに、生産者と技術的な面や経営的な面について、活発な意見交換が行われた。

とちぎ未来大使　宇都宮市出身の漫画家・仔鹿リナさんが来会されました

とちぎ未来大使で宇都宮市出身の漫画家・仔鹿リナ（こじか りな）さんが、当協会に来会されました。

仔鹿さんは、現在週刊誌「モーニング」で連載している作品「八百森のエリー」の単行本を発売しています。

こちらの作品は、栃木県宇都宮大学で農業を学んだ主人公（エリー（卯月瑛利））が、卒業後宇都宮市内の青果仲卸会社に入社し、同僚（のりたま（大虎倫珠））と、さまざまな問題と向き合い奮闘し、解決していく様子を描いた作品です。栃木県内の産地と農産物がたくさん登場しています。

とちぎ米－１コンテスト出品募集のおしらせ

実力ある「とちぎ米」の消費拡大と更なる品質・食味向上及び、生産意欲の高揚を図るために開催します。

栃木県産の「コシヒカリ」「なすひかり」「とちぎの星」の3部門で県内に居住している生産者等を対象に募集します。

申込方法、提出物等その他詳しい内容については

（一社）とちぎ農産物マーケティング協会
「とちぎ米－1コンテスト2018」事務局　まで

TEL：028－616－8787　FAX：028－616－8715

主催　一般社団法人とちぎ農産物マーケティング協会
共催　栃木県農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会栃木県本部
　　栃木県食糧集荷協同組合、公益社団法人栃木県米麦改良協会
後援　栃木県
協力　静岡製機株式会社

平成30年度とちぎ施設園芸スーパーコーチ派遣希望者の募集について

施設園芸経営の発展を目指す県内の経営者（いちご・トマト・花き・梨）に高度な専門家である「**とちぎ施設園芸スーパーコーチ**」を無料で派遣し、技術と経営のイノベーションを支援する事業を開始しました。

施設園芸の大規模化や最先端の栽培技術、労務管理や作業改善等のノウハウを持つ専門家６名から集合指導や個別指導が受けられますので、当協会または最寄りの農業振興事務所にお問合せください。

◎とちぎ施設園芸スーパーコーチ

1.株式会社デルフィージャパン ホーティカルチャースペシャリスト 斎藤 章 氏
2.株式会社デルフィージャパン コンサルタント デニス ステーンチェス 氏
3.全国農業協同組合連合会「ゆめファーム全農」技術指導 大山 寛 氏
4.株式会社兵庫ネクストファーム 代表取締役 田中 進 氏
5.神戸学院大学 経営学部 准教授 千田 直毅 氏
6.株式会社日本能率協会コンサルティング チーフコンサルタント 島崎 里史 氏

◎派遣費用

無料（派遣にあたり、講師の謝金及び交通費は県が負担します。ただし、受講するにあたって必要となる消耗品等の一部の経費についてご負担いただく場合があります。）

◎派遣スケジュール

平成30(2018)年７月～平成31(2019)年２月

◎応募期間（第2回募集）

平成30(2018)年8月17日(金曜日)まで

「“とちぎ県産米 おにぎり”コンテスト」開催

高校生や大学生など若い世代を対象に、栃木県産米オリジナル品種「なすひかり」「とちぎの星」を使用したおにぎりコンテストを開催いたします。
最終審査会では、特別審査員に日本料理つきぢ田村三代目田村 隆さんとお米マイスター澁谷梨絵さんが審査します。つきましては、下記のとおり募集していますので、ぜひご応募ください。

締　　切：２０１８年０８月３１日（金）作品提出・応募締切、必着
募集内容：栃木県産米オリジナル品種「なすひかり」「とちぎの星」を使用したおにぎり
※お米は、栃木県産米オリジナル品種「なすひかり」「とちぎの星」のどちらかを使用すること
※おにぎりの具材には、必ず栃木県産農産物を1品目以上使用すること
【テーマ】毎日食べたくなるおにぎり
参加資格：栃木県内の高校生および専門・短大・大学生等
審 査 員 ：一般審査員
応募・問い合わせ先：「とちぎ県産米おにぎりコンテスト」事務局（栃木リビング新聞社内）
TEL：０２８－６００－８２２８
〒320－0811　宇都宮市大通り1-4-24（月～金10：00～18：00）

◆◆◆ 8月の予定 ◆◆◆

6日(月)	冬春トマトグランプリ表彰式	（県庁）
8日(水)	いちご王国グランプリ表彰式	（県庁）
10日(金)	スーパーコーチ派遣（JMAC）	（農業大学校）
23日(木)～24日(金)	りんどう研究会視察研修	（秋田県）
24日(金)	スーパーコーチ派遣（JMAC）	（農業大学校）
30日(木)	とちぎ農産物イメージアップ研修会	（東京都）

一般社団法人 とちぎ農産物マーケティング協会　（平成３０年８月発行）
TEL: 028－616－8787　FAX: 028－616－8715
http://www.tochigipower.com/　☞「カラダにとちぎ」で検索
facebook始めました！⇒ https://www.facebook.com/tochiginousanbutsu/